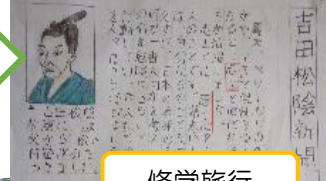
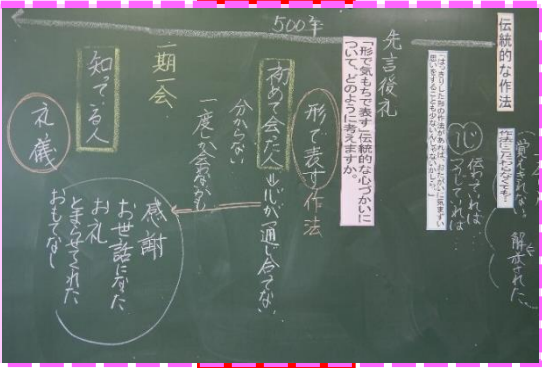


# ●指導の実際

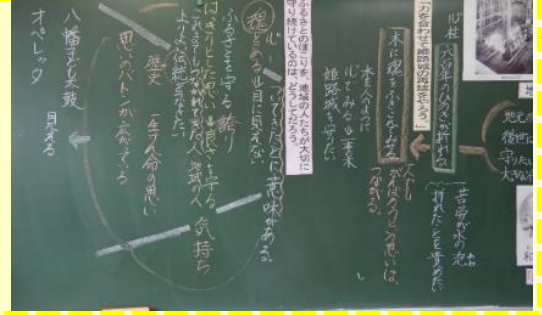
## 道徳科

## 各教科等

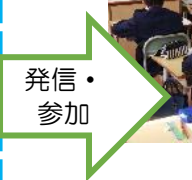
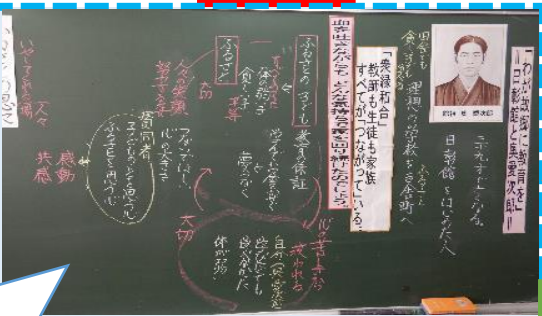
**「ぼくのお茶体験」**  
 修学旅行では、礼儀だけでなく、初めて出会った人への思い「一期一会」を大切にしたい。それぞれの地域が大切にしてきた伝統文化を調べたい。



**「天下の名城をよみがえらせる＝姫路城＝」**  
 歴史のバトンには、受け継いだ人の思いが込められている。伝統の大切さを伝える思い、受け継ぐ思いが、私たちにもある。



**「わが故郷に教育を一彰館と奥愛次郎」**  
 先人が故郷を思う気持ちの深さに感動した。その思いを受け継ぎ、今、自分達にできることをしていこう。



奥愛次郎の故郷に教育を広げたいという思いや生徒の心を育てようと思う気持ちを自分達も受け継いで、勉強をしっかりとしたいと思います。自分たちの故郷にこんな人がいることは、すごいことだと思います。体を悪くしながらも故郷のために努力した奥愛次郎の思いを大切にしたいです。(道徳ノートから)



「先人や先輩の生き方に学び八幡の伝統を引き継ぎ、創造しよう」

### 【成果と課題】

吉（よ）き舎（やど）リプログラムを計画・実践することで指導者自身が、道徳科と各教科等のつながりが明確になり、別業や年間指導計画に示されている学習内容や活動を意図的に関連させていこうと考えることができるようになった。

課題として、吉（よ）き舎（やど）リプログラムを児童生徒に意識させるために、学びの足跡を掲示し視覚化していく必要があると感じた。また、発達の段階に応じ、プログラムに沿ったワークシートなどを工夫し、児童生徒が学習過程の記録や振り返りをする中で、自身の成長に気付けるようにしていきたいと思う。